

令和4年度 事業報告

第1 事業の概要

令和4年度の事業運営に当たっては、農業経営の安定を図るため、「収入保険制度」と「農業共済制度」の二つの農業保険制度について周知及び普及推進に、行政や関係機関等と一体となり、NOSA I 組織役職員総力を挙げ取り組んだ。更に、各事業の引受・損害評価の適正実施、効果的な損害防止事業の実施などに努めた。

その結果、農業共済事業の引受では、全体的に高齢化等による経営規模の縮小や廃業・収入保険事業への移行等もあり減少し、全事業の総共済金額は1兆240億4,900万円余で前年度対比97.2%となった。収入保険事業の引受については、全国目標10万経営体推進期間の最終年度に当たり、組合目標2,400経営体達成に向け、全職員を挙げて戸別訪問を中心に加入推進に取り組んだが、1,652経営体の加入に留まった。

一方、農業共済事業の被害関係では、台風や降雪などの大きな被害はなかったが、一部の地域において、ひょう害の影響により、麦、なし、園芸施設及び家屋への被害が発生した。全事業の支払共済金総額は12億2,300万円余で前年度に比べ被害の大きな年であった。また、収入保険の支払いについては、令和3年加入において、コロナの影響に伴う米価下落による収入減少等により、加入件数の5割以上の555経営体に対し、約17億8,800万円、一経営体当たり320万円の保険金が支払われた。

損害防止事業については、加入者へ要望調査等を実施しニーズの把握に努め、損害の未然防止に努めた。

業務収支については、運営経費の必要額確保に努めたが、国庫事務費負担金が4億8,190万円余と前年より約750万円余の減となり、収入計では18億3,040万円余となった。支出においては、業務の効率的運営に努めたこと、また、新型コロナウイルス感染症予防対策として、会議等の中止、及び、基礎組織役員への業務依頼を中止したこと等により支出は減少した。

事業収支においては、園芸施設共済勘定・家畜診療所勘定に不足金が生じたが、家畜共済勘定・任意共済勘定では剰余金が生じた。

第2 引受・損害評価の実績

(1) 農作物共済関係

(引受)

区分	項目	組合員数	引受面積	引受収量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
水 稲	一筆方式	人	a	kg	円	円	円	円
	半相殺方式	0	0.0	0	0	0	0	0
	全相殺方式	9,910	736,237.1	28,533,422	5,030,693,373	9,672,392	△ 1,851,348	7,821,044
	品質方式	138	36,951.9	1,501,332	272,012,300	636,686	76,555	713,241
	小計	269	66,857.5	-	423,742,166	2,116,831	△ 838,882	1,277,949
麦	令和4年産	10,317	840,046.5	30,034,754	5,726,447,839	12,425,909	△ 2,613,675	9,812,234
	一筆方式	0	0.0	0	0	0	0	0
	半相殺方式	189	139,721.3	4,141,184	406,400,855	1,166,508	845,122	2,011,630
	全相殺方式	12	9,261.0	341,203	43,282,312	216,004	24,225	240,229
	災害収入共済方式	255	228,755.7	-	1,237,546,620	14,561,042	△ 3,746,020	10,815,022
小計	456	377,738.0	4,482,387	1,687,229,787	15,943,554	△ 2,876,673	13,066,881	
令和5年産	一筆方式	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺方式	166	130,364.5	3,869,203	367,954,698	1,006,840	731,689	1,738,529
	全相殺方式	13	3,548.6	138,721	17,684,830	123,792	18,264	142,056
	災害収入共済方式	257	228,977.4	-	1,375,252,230	15,299,386	△ 3,905,376	11,394,010
	小計	436	362,890.5	4,007,924	1,760,891,758	16,430,018	△ 3,155,423	13,274,595

△:納入保険料

※農作物共済麦の令和5年産については、決算時の引受内容を記入。

○水 稲

- ・前年対比
- ・引受概況

引受組合員数:88.3%・引受面積:81.2%
 令和4年産の引受組合員数は10,317人で、前年より1,539人の減少、引受面積は8,400haで前年より1,941haの減少となった。
 要因としては、任意加入となったことにより小規模作付農家の未加入や農家の高齢化等による作付中止、また収入保険移行により引受組合員数、引受面積ともに減少となった。
 引受方式別では、組合員数割合で半相殺方式が全体の96.1%、全相殺方式が1.3%、品質方式が2.6%となった。近年の気象災害による品質低下被害を受け、加入要件を満たす農家等に対し水稻品質方式への移行を推進した。また、青色申告を行っている農家等に対しては収入保険制度を含めた効果的な推進を行った。

○麦

- ・前年対比
- ・引受概況

引受組合員数:82.8%・引受面積:74.9%
 令和4年産の引受実組合員数は456人で、前年より95人の減少、引受面積は3,777haで前年より1269haの減少となった。
 要因としては、任意加入となったことによる未加入や農家の高齢化等による作付中止、また収入保険移行により引受組合員数、引受面積ともに減少となった。
 引受方式別では、組合員数割合で半相殺方式が全体の41.5%、全相殺方式が2.6%、災害収入共済方式が55.9%となった。収穫期の気象災害による品質低下被害の発生が多いため、加入要件を満たす農家等に対し災害収入共済方式への移行を推進した。また、青色申告を行っている農家等に対しては収入保険制度を含めた効果的な推進を行った。

(被害)

区分	項目	被害組合員数	共済減収量	共済金	$\frac{\text{共済金}}{\text{共済金額}}$	備考
水 稲	一筆方式	人	kg	円	%	
	半相殺方式	0	0	0	0.0	
	全相殺方式	78	19,894	3,541,242	0.1	
	品質方式	15	19,124	3,592,110	1.3	
	小計	31	57,502	4,147,830	1.0	
麦	一筆方式	124	96,520	11,281,182	0.2	
	半相殺方式	0	0	0	0.0	
	全相殺方式	48	190,258	22,350,321	5.5	
	災害収入共済方式	6	52,302	6,628,107	15.3	
	小計	91	1,156,197	71,385,646	5.8	
		145	1,398,757	100,364,074	5.9	

○水 稲 ・被害概況

8月下旬以降の豪雨の影響で、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」を中心に倒伏被害が発生した。病虫害については、紋枯病、内穎褐変病が全域で発生した。中山間地域では斑点米カメムシ類がやや多く、北毛・東毛の一部でイナゴ類が多く発生した。一部地域では穂いもち、稲こうじ病、もみ枯細菌病が平年に比べてやや多く発生した。
なお、作柄については、12月9日公表の農林水産統計で作況指数101の平年並みとなった。

○麦 ・被害概況

1月及び2月下旬から3月上旬にかけて、降雨が少なく乾燥が続いたため生育が停滞し、一部で葉先枯れが散見された。5月27日の降ひょうにより、館林地域で被害が発生した。品質については、降雨や倒伏の影響により細粒・退色粒・未熟粒等が散見された。
なお、群馬県技術支援課公表の「令和4年産小麦の作況と麦類の当面の技術対策」(6月20日現在)によると、県内の平均作柄は「並」となった。

(支払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共済金支払財源					実支払共済金 共済金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
水	稲	令和 04.12.23～ 05.3.10	円 11,281,182	円 9,812,234	円 1,468,948	円 0	円 0	円 0	% 100.0
		04.9.16～ 04.12.23	円 100,364,074	円 13,066,881	円 87,297,193	円 0	円 0	円 0	% 100.0

(損害防止)

水稲・麦の病虫害防除等の損害防止事業に11,957,213円を使用し、各支所において関係機関と連携し、防除薬剤等を加入者に配布した。
また、伊勢崎支所においては、水稲種もみ温湯消毒機の貸し出しを行い、水稲種もみの温湯消毒を行った。

(2) 家畜共済関係

(引 受)

○死亡廃用共済

区分	項目	有資格頭数	事業計画頭数	引受頭数	引受頭数 事業計画頭数	共済金額 千円	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
搾乳牛	牛	頭	25,954	24,522	94.5%	5,590,940	154,508,741	154,443,199	308,951,940
	子牛等	33,450	10,745	10,715 472	99.7%	2,057,634	10,420,563	10,399,316	20,819,879
繁殖雌牛	牛		3,972	4,101	103.2%	1,227,683	5,368,680	5,347,550	10,716,230
	子牛等	56,400	23,323	23,321 2,322	100.0%	5,640,182	25,972,301	25,909,990	51,882,291
種豚	豚	57,110	10,597	6,211	58.6%	344,022	143,383	92,069	235,452
	合計	146,960	74,591	68,870	92.3%	14,860,461	196,413,668	196,192,124	392,605,792

・前年対比 頭数 100.4% 共済金額 101.8%

・引受概況 頭数は、搾乳牛・繁殖雌牛・育成肥育牛で前年度を上回ったが、育成乳牛は下回った。種豚については、加入率が低位であることと1戸あたりの飼養頭数が多数であることから、前年度より1戸引受減少となったことにより引受頭数は減少した。共済金額は、育成肥育牛では頭数は前年を上回っているものの、共済金額は下回った。その他の区分では、頭数と同じ傾向であった。

○疾病傷害共済

区分	項目	有資格頭数	事業計画頭数	引受頭数	引受頭数 事業計画頭数	共済金額 千円	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
乳用牛	牛	頭			%				
	子牛等	33,450	23,503	22,783 415	96.9%	313,815	107,336,332	107,333,378	214,669,710
肉用牛	牛	56,400	6,870	6,967	101.4%	61,485	13,805,306	13,804,647	27,609,953
	子牛等	57,110	2,178	676	31.0%	478	62,729	41,811	104,540
種豚	豚	146,960	32,551	30,426	93.5%	375,778	121,204,367	121,179,836	242,384,203

・前年対比 頭数 98.3% 共済金額 94.3%

・引受概況 頭数は、全区分とも減少した。共済金額は、乳用牛で減少し肉用牛種豚で増加した。

○特定包括肉豚共済

項目 区分	有資格頭数 頭	事業計画頭数 頭	引受頭数 頭	引受頭数 事業計画頭数 %	共済金額 千円	徴収共済掛金 (A) 円	交付金又は 納入保険料 (B) 円	手持共済掛金 (A)±(B) 円
特定包括肉豚	586,500	63,317	43,974	69.5	384,593	97,553	60,842	158,395

・前年対比 頭数 90.4% 共済金額 90.4%

・引受概況 加入率が低位であることと1戸あたりの飼養頭数が多数であることから、前年度より2戸引受減少となったことにより、引受頭数、共済金額ともに、1割の減少となった。

(事故)

○死亡廃用共済

項目 区分	死亡頭数 頭	廃用頭数 頭	総頭数 頭	支払共済金 円
搾乳牛	924	360	1,284	210,164,952
育成乳牛	335	17	352	15,772,298
子牛等	272	0		
繁殖雌牛	34	3	37	5,492,678
育成肥育牛	775	12	787	52,731,664
子牛等	704			
種豚	0	0	0	0
合計	2,068	392	2,460	284,161,592

事故概況

全体的に、頭数は増加傾向で、対前年度比108.4%であるが、支払共済金については育成乳牛を除き減少し、対前年度比96.8%であった。

○疾病傷害共済

項目 区分	件数	支払共済金 円
乳用牛	18,234	235,329,103
子牛等	841	
肉用牛	3,484	39,860,219
子牛等	2,063	
種豚	1	7,605
合計	21,719	275,196,927

事故概況

乳用牛・肉用牛については増加したが、種豚については減少した。全体では増加しており、対前年度比で頭数103.1%、支払共済金103.0%であつ

○特定包括肉豚共済

項目 区分	死亡頭数 頭	支払共済金 円
特定包括肉豚	3	23,823

事故概況 加入農家が、事故除外方式(特定の事故のみを補償対象とする)を選択していることから、対象事故は発生しなかった。

(損害防止)

実施種目	対象頭数又は回数	経費概算	摘要
特定損害防止	頭 475	円 1,932,180	牛
予防衛生措置	129,492	6,180,702	牛・豚
講習会、講話会	-	-	

- ・特定損害防止事業(国補助事業)については、診療所においては、繁殖障害を中心に、乳房炎、運動器病、周産期疾患、牛伝染性リンパ腫、呼吸器疾患を対象に実施
- ・一般損害防止事業については、予防衛生措置のための薬剤等を配布した。

(診療所)

診療所名	職員数	診療件数		雑収入	損害防止事業 経費概算		防疫業務	摘要
		共済事故	事故外		特損	円		
家畜診療所	人 8 1	件 3,892	件 1,153	件 1,168	頭 475	円 1,932,180	牛 1,049 豚 3,061	

- ・令和4年3月より家畜診療所の統合を行い、診療件数は、若干の減少、事故外診療件数は大幅な減少、また雑収入は若干増加した。
- ・診療件数の減少については農家戸数の減少が主な要因と考えられ、雑収入については人工授精・受精卵移植業務の増加があげられる。
- ・防疫業務について牛はアカバネ、5種混合予防注射であり、豚で豚熱(CSF)予防注射である。

(3) 果樹共済関係

年産	区分	項目	組合員数	引受面積	標準収穫量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
令和4年産	りんご	半相殺 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
		減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺	26	1,083.6	261,061	86,450,000	1,205,625	328,713	1,534,338
		減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
		減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺	-	-	-	-	-	-	-
		特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-
		樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
		特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-
		小計	26	1,083.6	261,061	86,450,000	1,205,625	328,713	1,534,338
		ぶどう	-	-	-	-	-	-	-
なし	なし	半相殺 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
		減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺	13	486.3	134,342	46,490,000	725,524	△ 200,796	524,728
		減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
		減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺	-	-	-	-	-	-	-
		特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-
		樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
		特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-
		小計	13	486.3	134,342	46,490,000	725,524	△ 200,796	524,728
		合計	39	1,569.9	395,403	132,940,000	1,931,149	127,917	2,059,066

△: 納入保険料

- りんご 前年対比 引受組合員数: 46.4%・引受面積: 50.6%
引受概況 収入保険移行及び特定危険方式の廃止により減少した。
- なし 前年対比 引受組合員数: 81.3%・引受面積: 78.0%
引受概況 収入保険移行及び特定危険方式の廃止により減少した。

(被害)

区分	項目	被害組合員数	共済減収量	共済金	共済金 共済金額	備考
りんご	半相殺 減収総合一般方式	人	kg	円	%	
	樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	
	半相殺 減収総合短縮方式	1	8,432	258,300	0.3	
	樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	
	半相殺 特定危険方式	-	-	-	-	
	樹園地単位 特定危険方式	-	-	-	-	
	小計	1	8,432	258,300	0.3	
	ぶどう	-	-	-	-	
	半相殺 減収総合一般方式	-	-	-	-	
	樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	
なし	半相殺 減収総合短縮方式	5	25,675	6,178,100	13.3	
	樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	
	半相殺 特定危険方式	-	-	-	-	
	樹園地単位 特定危険方式	-	-	-	-	
	小計	5	25,675	6,178,100	13.3	
	合計	6	34,107	6,436,400	4.8	

○りんご ・被害概況

・4月の降霜により花芽が凍死する被害が発生した。

・6月の高温により果実が腐敗、裂果する被害が発生した。

・6月の降ひょうにより摘果期の果実が損傷する被害が発生した。

○なし ・被害概況

(支払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共済金支払財源				実支払共済金 共済金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	
	半相殺 減収総合一般方式 樹園地単位	令和 -	円 -	円 -	円 -	円 -	円 -	% -
	減収総合一般方式 半相殺	-	-	-	-	-	-	-
りんご	減収総合短縮方式 樹園地単位	5.2.9	258,300	-	-	-	-	-
	減収総合短縮方式 半相殺	-	-	-	-	-	-	-
	特定危険方式 樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
	特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-
	小計	5.2.9	258,300	-	-	-	-	-
ぶどう	半相殺 減収総合一般方式 樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
	減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
なし	減収総合短縮方式 半相殺	5.2.9	6,178,100	-	-	-	-	-
	減収総合短縮方式 樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
	減収総合短縮方式 半相殺	-	-	-	-	-	-	-
	特定危険方式 樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
	特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-
小計	5.2.9	6,178,100	-	-	-	-	-	
合計	5.2.9	6,436,400	3,879,297	2,059,066	498,037	0	0	100.0

(損害防止)

りんご、なしの病害虫防除を目的として、283,644円を使用し、防除薬剤等を加入者に配布する損害防止事業を行った。
また、果樹園地を対象に、1点の土壌診断(経費770円)を行った。

(参考:引受)

年産	区分	項目	組合員数	引受面積	標準収穫量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
令和5年産	りんご	半相殺 減収総合一般方式	人	a	kg	円	円	円	円
		樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
		減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺	23	1,024.4	250,523	85,600,000	1,408,499	383,914	1,792,413
		減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
		減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺	-	-	-	-	-	-	-
		特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-
		樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
		減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-
		小計	23	1,024.4	250,523	85,600,000	1,408,499	383,914	1,792,413
		ぶどう	-	-	-	-	-	-	-
なし	なし	半相殺 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
		減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺	12	443.8	115,933	40,160,000	593,942	△ 164,336	429,606
		減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
		減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺	-	-	-	-	-	-	-
		特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-
		樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
		減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-
		小計	12	443.8	115,933	40,160,000	593,942	△ 164,336	429,606
		合計	35	1,468.2	366,456	125,760,000	2,002,441	219,578	2,222,019

△:納入保険料

(4) 畑作物共済関係

(引受)

区分	項目	組合員数	引受面積(大豆) 引受箱数(蚕繭)	引受収量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
大豆	一筆方式	人	a	kg	円	円	円	円
	大半相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	全相殺方式	6	2,022.5	21,322	2,318,468	4,297		
蚕繭	小計	実	2,022.5	21,322	2,318,468	4,297		
	春蚕繭	人	箱	kg	円	円	円	円
	初秋蚕繭	42	164.68	4,754	11,773,220	14,146		
蚕繭	初秋蚕繭	21	102.51	2,560	6,115,650	9,868		
	晩秋蚕繭	41	175.06	4,286	10,275,390	27,547		
	小計	延 実	442.25	11,600	28,164,260	51,561		
	合計				30,482,728	55,858	34,512	90,370

△: 納入保険料

大豆

○前年対比 引受組合員数:40.0%・引受面積:28.0%
○引受概況 収入保険移行及び一筆方式の廃止により減少した。

蚕繭
○春蚕繭 引受組合員数:85.7%・引受箱数:95.6%
○初秋蚕繭 引受組合員数:80.8%・引受箱数:95.1%
○晩秋蚕繭 引受組合員数:95.3%・引受箱数:93.9%

・引受概況 全蚕繭とも高齢化等により減少傾向にある。

(被害)

区分	項目	被害組合員数	共済減収量	共済金	共済金 共済金額	備考
大豆	一筆方式	人	kg	円	%	
	半相殺方式	-	-	-	-	
	全相殺方式	0	0	0	0	
	小計	実	0	0	0.0	
蚕繭	春蚕繭	3	119	296,310	2.5	
	初秋蚕繭	1	6	14,940	0.2	
	晩秋蚕繭	5	182	380,180	3.7	
	小計	延 実	9 9	691,430	2.5	
	合計			691,430	2.3	

大豆

○被害概況

蚕繭

○春蚕繭

○初秋蚕繭

○晩秋蚕繭

被害なし

・被害概況

・被害概況

・被害概況

細菌病と膿病の被害が発生した。

細菌病の被害が発生した。

生理病と膿病の被害が発生した。

(支 払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共 済 金 支 払 財 源				実支払共済金 共 済 金
				保険金	手持掛金 充 当 額	法定積立金 充 当 額	特別積立金 充 当 額	
大豆		令和 年月 日	円	円	円	円	円	%
	一筆方式	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺方式	-	0	-	-	-	-	-
	全相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	小 計	-	0	-	-	-	-	-
蚕 繭	春蚕繭	4.8.30	296,310	-	-	-	-	-
	初秋蚕繭	4.10.26	14,940	-	-	-	-	-
	晩秋蚕繭	4.12.23	380,180	-	-	-	-	-
	小 計	-	691,430	-	-	-	-	-
合 計	4.8.30～ 4.12.23	691,430	144,704	90,370	456,356	0	0	100.0

(損害防止)

大豆

病害虫防除を目的として、総額47,307円を使用し、防除薬剤等を加入者に対し配布する損害防止事業を行った。

蚕繭

養蚕経営の安定を目的に病害防除に215,061円を使用して、損害防止事業を行った。

(5) 園芸施設共済関係

(引受)

施設区分	項目	組合員数	引受棟数	設置面積	共済価額	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
ガ	ラス I 類	人	棟	a	千円	千円	円	円	円
ハ	ラス II 類	130	168	2,153.0	3,350,253	2,335,089	8,196,457	2,656,842	10,853,299
ニ	ラス I 類	1	1	1.0	157	63	168	118	286
ホ	ラス I 類	2,067	10,815	22,962.1	7,435,674	5,163,200	59,829,275	△ 11,045,577	48,783,698
ヘ	ラス II 類	433	562	6,617.0	4,034,614	2,914,443	25,974,792	4,546,169	30,520,961
ト	ラス III 類	319	447	4,584.8	5,316,988	3,575,681	15,448,982	△ 3,331,594	12,117,388
チ	ラス IV 類 甲	201	265	2,921.3	3,740,568	2,665,403	6,405,191	693,600	7,098,791
リ	ラス IV 類 乙	58	63	702.0	850,911	593,424	1,687,295	73,051	1,760,346
ニ	ラス V 類	271	4,384	10,632.4	2,624,595	1,629,243	9,614,649	4,365,229	13,979,878
ホ	ラス VI 類	42	70	1,520.0	62,419	50,212	262,789	74,748	337,537
合	計	3,522	16,775	52,093.6	27,416,179	18,926,758	127,419,598	△ 1,967,414	125,452,184

△: 納入保険料

※共済価額及び共済金額は四捨五入により合計値と一致しない。

○前年対比 引受組合員数: 100.3%・引受棟数: 98.1%・引受面積: 99.0%

○引受概況 有資格者名簿を整備し、戸別訪問による引受推進・一斉加入受付により前年と比べると組合員数は増加したが、規模縮小などにより引受棟数・引受面積は減少した。

(6) 建物共済関係

(引受)
農家建物

区分	項目	引受棟数	共済金額 千円	共済掛金		1棟当たり 平均共済金額 円	保険料 円	保険手数料
				純共済掛金 円	賦課金 円			
総合共済		棟 12,359	133,610,150	202,860,629	91,750,838	10,810,757	133,851,532	円 31,344,885
収容農産物Aタイプ								
収容農産物Bタイプ		(1)	3,000	6,300	2,700	3,000,000	2,700	688
火災共済		73,438	848,312,100	400,403,150	326,928,793	11,551,405	227,490,353	91,996,952
合計		85,797	981,925,250	603,270,079	418,682,331	11,444,750	361,344,585	123,342,525

○前年対比
○引受概況

- ・引受棟数:96.8%・共済金額:97.1%
- ・総合共済は、自然災害が多発していることで火災共済から切り替える加入者や新規の加入者があり、棟数で前年対比102.5%と増加する一方で、火災共済は、同対比95.9%で減少している。

(事故)
農家建物

区分	項目	事故棟数	共済金額 (イ) 千円	支払共済金(ロ)		保険金 円	被害率 (ロ)/(イ) %	備考
				火災等	風水害等			
総合共済		棟 357	4,046,800	40,873,864	65,797,925	32,184,936	2.6	
収容農産物		-	-	-	-	-	-	
火災共済		375	6,085,100	244,161,831	-	73,248,421	4.0	
合計		732	10,131,900	285,035,695	65,797,925	105,433,357	3.5	

(原因別事故発生状況)
農家建物

事故原因別	事故棟数	共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)	保険金	被害率 (ロ)/(イ)	備考
	棟	千円	円	円	%	
電気配線の漏電	3	27,300	9,986,184	2,995,853	36.6	
たき火の火	2	19,600	746,510	223,953	3.8	
その他の原因による火災	6	63,500	39,666,220	11,899,865	62.5	
ストーブ関係の火	3	29,300	35,342,224	10,602,666	120.6	
その他	13	158,500	103,519,656	31,055,890	65.3	
火災計	27	298,200	189,260,794	56,778,227	63.5	
落雷	258	4,073,800	63,218,899	18,965,563	1.6	
物体の落下・飛来等	15	265,700	442,753	132,823	0.2	
盗難によるき損・汚損	31	419,300	1,879,056	563,711	0.4	
車両の飛び込み等	20	377,700	2,270,220	681,063	0.6	
その他	117	1,803,100	27,963,973	8,389,165	1.6	
拡張担保計	441	6,939,600	95,774,901	28,732,325	1.4	
自然災害	264	2,894,100	65,797,925	19,922,805	2.3	
収容農産物	0	0	0	0		
合計	732	10,131,900	350,833,620	105,433,357	3.5	

○被害概況 支払共済金は、前年対比で火災が98.7%、拡張担保が314.4%、自然災害が458.4%で、全体で148.3%と増加した。

(7) 農業経営収入保険

(引受・支払状況)

全国目標10万 経営体に対する 組合目標	令和4年度目標戸数		令和4年度加入戸数			令和4年度支払保険金(令和3年加入分)		
	戸	2,400	個人	法人	計	加入戸数	支払戸数	支払額
2,400	戸	2,400	1,527	125	1,652	1,085	555	1,788,259,248

(引受)

全国10万経営体目標対比 68.8%
令和4年度目標対比 68.8%

(支払関係)

春先の降霜により果樹に、梅雨期からの長雨により野菜類に被害が発生。
新型コロナウイルス感染症等の影響による需要の減少。
このほか、病気、けがでの収入減少が要因。